

平成30年1月29日

渋川市議会議長

須田 勝 殿

新政クラブ代表 入内島 英明

## 会派「新政クラブ」行政視察報告の件

日時：平成30年1月26日(金曜日)～27日(土曜日)(1泊2日)

場所：26日・・・富山県氷見市・市役所往訪 (13:30～15:30)

視察事項・・・氷見市景観基本計画について

27日・・・氷見市中心市街地の景観について視察予定で有ったが、降り注ぐ雪のため積雪50～60cm有って、車道および歩道も革靴では歩けず。

早期に帰宅を決定した。北陸新幹線新高岡11:10発乗車

視察議員：山崎雄平、今井五郎、山崎正男、入内島英明

嶋田議長から歓迎の挨拶を受け、その後、まちづくり推進部・都市計画課、景観形成総括担当副主幹＝堂田 正仁氏より、下記事項について説明を受けて、景観基本計画策定までの経緯、決定について説明を受けた。

### (1) 富山県氷見市について 議員数＝17人

富山県の西北部、能登半島の東側付け根に位置している。日本海側有数の氷見漁港は、四季を通じて156種類もの魚が水揚げされ、初夏の「マグロ」、冬の「寒ブリ」そして「氷見いわし」は有名である。面積＝約230キロ平方メートル、人口4万7千人。

### (2) 氷見市の成り立ち

明治4年の廃藩置県後、金沢藩から金沢県に属し、その後七尾県、新川県、石川県と変わり、明治16年に石川県から分離して富山県の一部となる。昭和27年から市政を施行し、昭和29年までに3回の合併を行い、全国でもまれに見る1郡1市となる。

### (3) 名前の由来

「氷見」と書いて「ひみ」と読ませるのは全国的にも珍しく、由来は様々の説がある。

- 1・古代、蝦夷防備の狼煙を監視する場所で、狼煙の火を見るところから「火見」と言う
- 2・海をへだてて、立山連峰の万年雪が見えるところだから「氷見」と言った。
- 3・海の漁り火が見えるところだから「火見」と言った。
- 4・海が干し上がって、陸地になったところだから「干海」と呼んだ。

### (4) 景観基本計画策定までの経緯と決定については、別冊を参照。

### (5) 浅野総一郎翁の銅像と資料館を往訪

渋川市と由来のある浅野総一郎翁の銅像が有るので見に行く。しかし降り注ぐ雪と50～60cmの積雪で車から降りる事出来ず、車中より見る。続いて翁の資料展示館を訪ねたが鍵が掛かっている見られず。看板には横浜、川崎、渋川等の名前が書いてある。翁は氷見市で生まれたが地元には功績がないとのこと。しかし「京浜工業地帯」の生みの親と言うことで地元の英雄と成っているとのことである。

(記) 入内島 